

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞
(防災砂防課長賞)

「 熱海土石流から考えること 」

岡山県立津山中学校 2年 ^{にのみや}二宮 ^{ゆうたろう}優太郎

最近、毎年のように起こっている土砂災害。土砂災害が起こるたびに家や道路がのみ込まれ、多くの人が命を落としている。そもそも土砂災害は、土石流、崖崩れ、地すべりなどに分けられ、どれも人命を奪う可能性が非常に高い。2021年に静岡県の熱海市で起こった土石流災害は深く記憶に残っている。

この土砂災害は「土石流」で、土石流とは、山腹や川底の石や土砂が、大雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象のこと。過去に起こっている土石流では、1982年の長崎・熊本連続土石流や2014年の広島市土石流などが挙げられる。これらはほとんど、短時間に非常に多くの雨が降って地盤が緩み、山から海に向かって多くの土や瓦礫が運ばれたことによって起こっている。熱海市で起こった土石流もこれまで日本で起こってきたこれらの土石流と同じようなメカニズムで、現場周辺の48時間降水量は328mmで、7月の観測史上で最多となっていた。そのため、熱海市の伊豆山の地盤が緩んでいたことは確かだ。しかし、別に原因があり、それは上流山間部の違法盛土の崩壊だ。この盛土について、過去に県と市が業者に盛土の高さが法令基準の3倍に達しているとして、是正を求めている。

午前10時28分に住民から大量の泥水が流れて家が跡形もなく流されたという通報があり、消防隊が出動したが、土砂で現場にはたどり着けず、人力で調査していたところ、大規模な土石流が発生し、多くの住宅を巻き込みながら流下した。これを住民が撮影しており、土石流のことが国内外のマスメディアで大々的に報道された。また、現場には一時「緊急安全確保」が発令され、自衛隊が行方不明者の捜索を行った。この災害で災害関連死を含む28名が死亡した。

この地域はハザードマップで土石流や地すべりなどのリスクが高いエリアに指定されている。発生当日の見立てでは非常に強い雨が降り続いたことにより、雨が山間の斜面全体に浸透し、土中の水の圧力が増大し続けて一気に斜面が流れ出たと推定された。しかし、前述の通り、主要因は人為的な盛土の形成にあった。静岡県は盛土を調査し、多くの盛土で不備があったことが確認された。これを受け静岡県は新たな盛土規制条例を制定し、再発防止に取り組んでいる。土砂崩れが起きた7月3日は静岡県や熱海市を含めた追悼式が開催されている。

私が当時テレビでこのニュースを見たときに衝撃を受けた。なぜなら、いつもなら平然としている街の風景に土が流れ込んできて、家が崩壊していくことに対して頭が追いつかなかったからだ。もし自分がそのときにその場にいたとしても自分の力ではどうにもできないということを認識した。命を落とさなかったとしても家は全壊で自分だったら絶望すると思う。そんなときに全国からの支援やボランティアがあることによってその人や現場の状況は大きく変わると思う。この熱海土石流で2800人以上のボランティアの人が支援を行った。支援として掃除をするなどの形のあるものもあると思うけれど、心のケアをしていくことも大事だと思う。まだ大きな災害を経験していない自分が言えるのかどうかはわからないけれど、こういう時こそ助け合いが必要ということを改めて感じた。当事者の人がどんなにつらい思いをしているかということは考えきれない。できれば将来には災害時に被害ゼロになってほしいが、あまり現実的ではないと思うので、「減災」をしていくことが大切だと思う。

いま、異常気象の影響で災害が多発していると感じている。まずは地球の、日本の未来について多くの人に関心を持つことが重要だと考える。